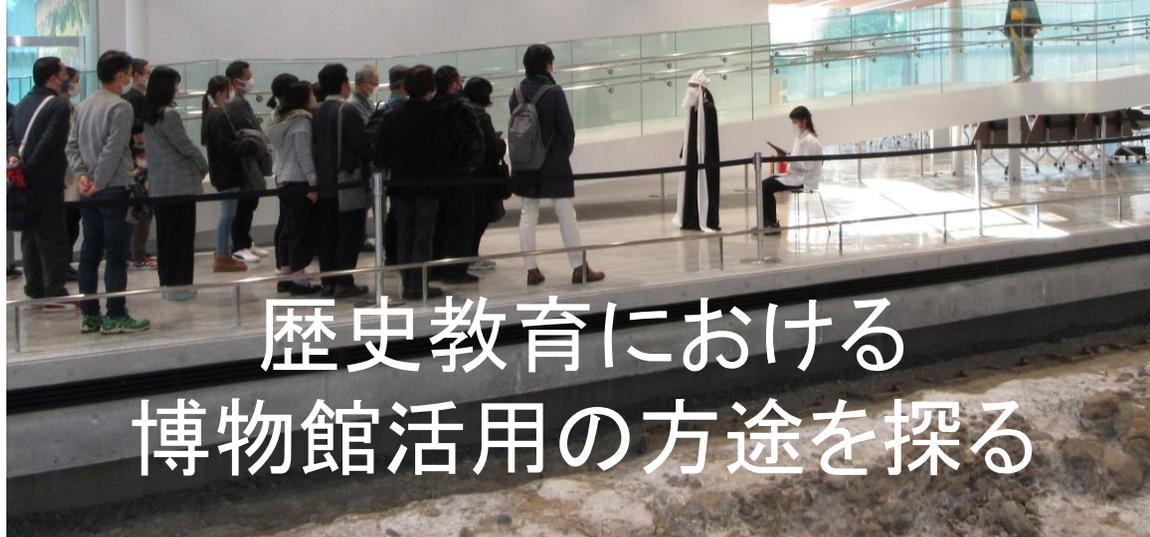


第25回

静岡歴史教育研究会



歴史教育における 博物館活用の方途を探る

報告者

久保田 明子(広島大学原爆放射線医科学研究所)
“被爆”を展示すること

太田 那優(静岡市歴史博物館)

博物館という「歴史を体感する機会」をつくる

—学習段階に応じた博学連携のあり方と課題—

村松 孝則(浜松大平台高等学校)

歴史授業における博物館との協働の試み

—浜松市博物館学芸員を招聘した授業実践について—

司会:戸部 健・貴田 潔(静岡大学)

2023年1月、静岡市初の歴史博物館である「静岡市歴史博物館」が開館しました。同館においては、普及の観点からの展示企画とともに、歴史資料の調査・保存・活用および教育のセンターとしての役割が期待されています。

静岡歴史教育研究会においては、これまで大学の歴史学や考古学の教員と高校の地歴教員が集い、歴史教育に関するテーマから高大連携が進められてきましたが、新しい歴史博物館が、この高大連携・歴史教育の場においてどのように活用されるべきなのか、その可能性と方法について検討します。

歴史的な資料の保存と活用という観点から、アーカイブズ学をご専門とする広島大学原爆放射線医科学研究所の久保田明子先生に、また静岡市歴史博物館学芸員の太田那優先生と浜松大平台高校の村松孝則先生には、博物館と高校における歴史教育の実践報告をしていただきます。従来、展示見学のみには接点があるやに思われる博物館と歴史教育について、歴史資料の保存・展示の実際をはじめ、博物館業務の実態を知るとともに、博物館・高校の双方にとり、どのようなアプローチが歴史教育と密接にかかわるために有効なのか、保存・展示と教育との架橋について議論します。

日時:2023年8月3日(木)13:30~18:00 (13:00開場)

会場:静岡大学人文社会科学部4F 401教室 *事前予約不要・入場無料
https://www.shizuoka.ac.jp/access/document/cmap_shizuoka.pdf

主催:静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費「歴史教育の地域的基盤を構築する教材・教授方法の実践と新たな高大連携の推進Ⅱ」、静岡歴史教育研究会

問合せ先:松本和明(静岡大学人文社会科学部)
matsumoto.kazuaki@shizuoka.ac.jp